

佐渡市立新穂中学校 学校だより

新穂の穂り

教育目標

やさしく つよく あたらしく



☎22-2067

FAX22-3838

niibo-js@sado.ed.jp

令和2年5月25日

ソーシャルディスタンスを乗り越えて

校長 小沼 泰高

新年度が二回訪れたような今年の4月と5月でした。

二度目の休業明けにあたる5月11日(月)、生徒たちが16日ぶりに学校に戻ってきました。生徒が登校する姿を久方ぶりに見たという地域の方もおられると思います。今まで当たり前だった日常の光景までもが一変してしまった今回のコロナ禍。まだまだ予断が許されない日々が続く中ではありますが、学校が再開して少なからず安堵しています。校舎内に飛び交う生徒の声が耳に入るにつけ、教室で学習する生徒の姿を見るにつけ、学校の主役は生徒であるということをしみじみと感じました。

さて、学校は生徒を一層輝かせるために、校長、教頭、教諭、養護教諭、事務職員、庁務員、介助員、学校図書館事務、ALT、地域コーディネーターなど、いろいろなスタッフがいろいろな役目に携わっています。教諭にあっては、教科、学級、生徒会、委員会、部活動の外に、時間割や行事予定の調整、学習指導、生活指導、総合的な学習の時間、道徳、研究、進路、特別支援教育など、各自が教育活動の何らかの中心役(主任)となって学校を牽引しています。学級に例えるなら係活動、生徒会なら委員会活動といったようなものです。そして、日々の生徒の様子を見て、自分が担当している係(委員会)の立場から、様々な企画をスタッフに提案したり有益な情報を提供したりしながら、生徒のより良い成長を目指しています。

新穂中学校の今年の重点的な取組は、①自己肯定感・自己有用感の育成、②協働性の育成、③いじめ見逃しゼロ、④メディアコントロール力の育成、⑤運動習慣の育成、⑥読解力・思考力・表現力の育成、⑦家庭学習習慣の育成です。

家庭学習習慣の育成には、学習指導主任が教科担任や学級担任に企画を提案し協議し、連携と協力を図りながら取組を推進します。新学習指導要領が生徒に身に付けさせたい資質・能力の一つに調整力がありますが、まずは教職員が校務の中で身を以て実践し生徒に還元していきます。このように校務に携わりながら教員としての力量を高めていく営みをOJT(オンザジョブトレーニング)といいます。また、運動習慣の育成であれば、保健体育の授業と体育祭活動や生徒会球技大会などとの関連を強め、相乗効果を図ります。このような工夫を、新学習指導要領ではカリキュラムマネジメントと称します。このカリキュラムマネジメントにあっても、スタッフ同士の意見調整や連携が鍵を握ります。

再び話は変わりますが、今年はコロナ禍の影響で会合の自粛や行事の取りやめが相継ぎ、学校と地域との交流が激減しています。「三密回避」いわゆる「ソーシャルディスタンス」の徹底が求められているからですが、私はこの言葉に違和感を抱いています。ソーシャルという言葉を用いると、人と人の物理的な距離だけでなく、真の意味での社会性(人間関係、信頼関係等)までもが遠ざけられるような気がするからです。ソーシャル以外の何か適切な横文字はなかったのかなと感じます。

顔を合わさずとも関係を維持、構築する方法が通信だと思えます。この学校だよりは、古くから続いてきた地域との通信手段です。そのため、こういう時期だからこそ一層の充実を図りたいと思います。その一環として、今月号から当校スタッフに順次登場してもらうことといたしました。スタッフには、自分が担当する係の取組、所感、豊富などを紹介してもらいます。今回は、木本陽介教諭です。

◎学習指導担当より 木本 陽介（2年担任 数学 女子バレーボール部）

このたび学習指導担当を仰せつかりました木本と申します。先日、新穂小、行谷小と行いました三校連携学習指導部会で話し合った内容をお知らせします。

三校の共通した学習課題として、「思考力・書く力」、「家庭学習への取組」の2つが上げられました。新穂中では今年度から1、2年生は自主学習ノート、3年生は新研究による家庭学習を進めています。生徒一人一人が学習内容を自分で選択し、1日1時間以上の家庭学習を目指して日々勉強に励んでいます。中には教科書より深い内容の学習、時には5教科以外の自分の興味がある分野を調べる生徒もおり、「思考力・書く力」を深める機会となっています。

また、家庭学習の時間の確保やメディアコントロールの目的を兼ねて、終学活の5分間を利用して、連絡帳に帰宅してからの学習予定を立てるということも行っています。同じ取組を新穂小でも行っており、行谷小では朝学習、家庭学習強調週間の実施など、三校それぞれ取組を行っています。

しかし、多くの生徒は家庭学習を基礎学力の充実や弱点補充にとどまっているという現状があります。「そもそも家庭学習をなぜ行うのでしょうか」、我々新穂中の教師が考える家庭学習の位置付けは、「生徒の基礎ベースを広くすることで授業の安定につなげ、生徒の思考を深める学習や考えを書く学習へ取り組めるようにするためのもの」としています。教師が授業のどこで生かすべきなのかということを考えて家庭学習を用意することが学力向上につながると考えています。また、良い家庭学習の取り組みは掲示物やおたよりでどんどん紹介していき、自主学習の『型』を図や写真で示すことで、生徒のアイディアを共有することも目指しています。そして、5教科の教科書より深い学習、また5教科以外の発展的な学習を推奨する取組週間の設定なども検討しております。

さて、新穂中では4月13日～24日の間、学習調査を行ったところ、右の結果となりました。この結果を生徒に伝え、「1時間の目標を自分はクリアしたいか」、「次の目標はどれくらいか」を振り返っ

集計結果・・・集計期間4月13日～24日			
	平均学習時間	提出率	60分以上学習した生徒の割合
1学年	78.0分	75%	70%
2学年	42.3分	72%	16%
3学年	60.0分	89%	89%

てもらいました。しかし、「勉強をしろ」と言われても「何を勉強したらいいのか分からない」、「自分で予定を立てることができない」などの悩みもあると思いますので、教師が最大限サポートしていく必要があると思っています。それ以上に、生徒が「勉強したい」と思えることが一番重要な要素になってくると思っています。

文部科学省はsociety5.0に向けた社会で、今後必要になってくる力は「文章や情報を正確に読み解き、対話する力」、「科学的に思考・吟味し、活用する力」、「価値を見つけ、生み出す感性と力、好奇心・探求力」だと提言しています。また、一斉授業で読解力など基盤的な学力を確実に習得させつつ、個人の進度や能力、関心に応じた学びの場を保障したり、学習到達度や学習課題等に応じた異年齢・異学年集団での協働学習を拡大したりするなど、学校の在り方も変わってきています。また、大学や研究機関、企業、NPO、教育文化スポーツ施設等も活用した多様な学習プログラムが望まれています。

たくさん情報の中から自ら選択し、自主的に取り組む能力が求められる昨今。この家庭学習への取り組みは、そうした力を養うための第一歩となることを願いながら行っています。未来の時代を生きる生徒が生き抜くための資質・能力を身に付けるため、より一層の情熱をもって取り組んでいきたいと思っています。

新聞を読んで、地域や世の中、人の考えを知ろう！

今年度、新穂中学校では、新聞を活用した教育活動を推進しています。今後、新聞記事を使った授業等も行っていく予定です。その一つとして、3階の廊下やマルチルームに新聞を閲覧できるコーナーを設置しました。新聞を読むことを通して、地域や世の中、人の考えを知り、視点を広げてもらえればと思います。ご家庭でも、新聞記事を話題にしていただけたらと思います。

古い新聞は棚に入れ、3階のマルチルームでゆっくり読むことができます！



3階に最新の「新潟日報」、「毎日新聞」、「朝日新聞」が読めるコーナーを学年別に三カ所設置しました！



6月の予定

- 3日(水) 1年生総合学習伝統芸能①
- 8日(月) 代議委員会
- 10日(水) 専門委員会
1年生総合学習伝統芸能②
- 17日(水) 1年生総合学習伝統芸能③
- 22日(月) 3年生新研究テスト①
- 23日(火) テスト前活動休止(～30日)
- 30日(火) 期末テスト①(～7月1日)



学習ボランティア募集

佐渡市では生徒の学力を向上させるために、学習支援ボランティア事業を行っています。新穂中学校では、放課後や夏休み等に、中学3年生を対象に自習監督や個別指導をしたいと思っています。ご協力いただける方は、下記の担当まで、ご連絡ください。

新穂中学校 教頭 中澤 健太
22-2067

新穂中HPを随時更新しています。
ぜひ、ご覧ください。
<http://niibo-js.sado.ed.jp>